

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1270100702		
法人名	有限会社 山葉福祉		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	千葉市中央区南町2丁目11番5号 (電話) 043-268-2227		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年2月6日

【情報提供票より】(平成21年 ##### 記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	18 人	常勤12人, 非常勤10人, 常勤換算	13.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	3階建ての 1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(1,000,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名	
要介護1	2	要介護2	5			
要介護3	6	要介護4	2			
要介護5	2	要支援2	0			
年齢	平均	88歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三愛記念そが病院 学園前歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR蘇我駅より東側に徒歩3分ほどに立地した町なかの利便性の高いホームである。内部は食堂、リビングが広くとってあり、利用者にとって居心地の良い空間である。「ゆったりと楽しむ。自由にありのままに。一緒のケアそしてケアされるケア」という理念を中心に据え、ホームを「終の住みか」としてその人らしく最後まで暮らしていけるよう支援している。そして毎月の日帰り旅行、誕生日会等利用者・家族と職員とが一緒に参加する行事があり、その様子は「さくら便り」として写真入りで各家族に伝えられる。また開設後8年近く経過し利用者の高齢化が進み、それにあわせて看護師を採用し「看取りケア」を実施している。緊急時の高齢者宿泊ケアを受入れてい

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回「ホームページを改定の折には地域住民との交流について、わかりやすい言葉で記載することを期待したい」と指摘された。全体会議・運営推進会議でとりあげ、ホームページを見直して分かりやすい文言に改定した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員で自己評価について話し合い、今年度取組む課題として「外部評価4項目」取り上げた。毎月の全体会議で改善状況を確認して一つづつ具体策を考え進む予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は3ヶ月に1回定期的に開催されている。民生委員、介護相談員、町会代表、家族会代表等がメンバーとして参加している。会議では外部評価・自己評価の報告、ターミナルケア、利用者の生活状況等を取り上げていることが会議録で確認される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会は年2回実施され、その都度、家族と担当職員とマンツーマンで個別に相談する機会をつくっている。家族会では、ハワイアン演奏、おどり等の催しがあり、家族が本音を言いやすい雰囲気となっており、そこでの意見・苦情は運営に反映されている。また面会時にも家族からの相談に積極的に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町会に加入しており、地域での盆踊り、敬老会に参加している。町会から行事予定を入手しており、近所の方も時々ホームにぶらっと寄ってくれる。そしてホームでは地域のボランティアの人が叙情歌・童謡を歌ったりと地域との双方向の関係が築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しむ。自由に、ありのままに。一緒にケア、そしてケアされるケア。残された力で暮らしの喜びと自信を」を理念として構築している。一方的なケアでなく、その人に合わせた適度のケアを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールに掲示して常に管理者と職員との共有をはかっている。そして全体会議で、ケアプラン作成時、理念を中心に置いて計画している。また家族会の折にも、職員・家族一緒になって理念に基づいたケアをしていくことを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会に加入しており、盆踊り、敬老会等に参加している。行事予定は町会から入手し地域の人と交流を図っている。また地元のボランティアの人達がホームにて、おどり、ドジョウ掬い、ハワイアン演奏等して、ホーム・地域の双方向の交流がはかられている。		地域との交流をさらにすすめるために、施設見学を積極的に呼びかけたり、保育園・学校との交流をはかる取り組みを期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員と全員で自己評価にとりくみ、管理者・施設長がまとめ、再び全体会議で確認する。管理者は外部評価は「ホームは閉鎖的になりやすいので外からの目が必要であり、家族アンケートは家族の思い、本音が伝わってくる」と考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は年4回定期的に開催されている。参加者は介護相談員、民生委員、町会代表、家族会代表等である。会議では、外部評価・自己評価の報告、ターミナルケア、利用者の生活状況等が取り上げられていることが会議録で確認できる。</p>		<p>地域住民に声かけして会議の参加メンバーを増やす取り組み、あるいは会議でのケア以外の意見・質問が活発になるような取り組みを期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員が月1回ホームを訪問し、市の窓口となっている。また、千葉市グループホーム連絡会に出席して、市町村とサービスの向上について話す機会としている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「さくら便り」を毎月発行し、利用者の暮らしぶり、催し・日帰り小旅行での写真等掲載して、個々の家族に伝えやすく工夫している。また家族訪問時にはケアプラン担当職員、看護職員とともに利用者の健康・エピソード・近況を報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は年2回実施して、家族と担当職員とマンツーマンで個別に相談する仕組みができています。また家族会にあわせてボランティアによるハワイアン演奏・おどり等の催しが設定されており、家族が本音を言いやすい雰囲気づくりとなっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が交代する折には、新旧二人ダブルで1ヶ月かけて引き継ぎをする。そして利用者との人間関係を徐々につくり馴染んでいくような仕組みがつけられている。また職員が子供の迎え等で勤務時間が合わなくなったときは相談して対応し、離職を抑える努力をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ベテラン職員が新職員とマンツーマンで実地教育をし、常に5分間カンファレンスを実施して育成して行く体制が構築されている。今年度職員増員したので、外部研修参加を増やせるよう努力している。研修結果は全体会議で報告し共有をはかっている。またパート職員も研修・会議に出席している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は千葉県グループホーム連絡会に出席して、地域同業者との交流をはかっているが、職員間の交流までには至っていない。</p>		<p>同業者との勉強会・相互訪問等交流をはかり、さらなるサービス向上をすすめていくことを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と面談し、家族からの聞き取りをした後で、新規利用者体験入居となる。1週間かけて部屋の環境、本人の使い慣れたもの等ホームに馴染んでいただけよう工夫する。その間職員は本人のくせ・様子・状態を確認する。そして職員と納得できる関係をつくる。また家族と相談しながら入居にいたる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者とお茶・食事を共にし、一緒に暮らしている仲間として共感あっている。一緒になって、壁にかける装飾の絵を作ったり、雑巾縫いをしたりする。或いは職員の忙しい様子をみて洗濯物をたたんだり、重い物を運ぶときは一緒に持ってくれたり家族のような関係が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>心身の状況・本人・家族の意向、生活暦、生活環境から暮らし方の希望や意向を引き出すようにしている。意思確認が困難な場合は表情、行動から真意を推し量っている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の思いや意向を聞き取り、日々の対応記録、職員の気付きを介護計画に反映させるよう全職員で意見交換やカンファレンスを行い「できることを引き出す」視点を大切にしながら介護計画が策定されている</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度の見直しは利用者の生活課題のあるなしに関わらず、本人や家族の意見を取り入れながら行い、状況の変化があった場合はその都度見直している。ケア会議では日々の気付きを大切に意見交換を行い、介護計画が作成され日常生活支援の基礎となっている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の希望に応じ通院・外泊・美容院等柔軟に対応している。緊急の場合は即日のショート、一日のみのショートにも対応している。介護教室もいつでも受け入れる体制が出来ているが希望者がなく開催に至っていない。</p>		<p>介護教室の看板を掲げ、場所も確保しているのに利用者がいないのは残念である。積極的に町内会・民生委員などを通じて呼びかけ、地域住民が気軽に立ち寄りたり相談したりできる「拠点」としての機能性を発揮できるよう実現を期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医のほか、利用者・家族の希望するかかりつけ医や医療機関で治療が受けられるように通院介助している。利用者が短期入院した場合、毎日職員が病院に行き利用者の状況確認をし、同時に洗濯物交換なども行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>原則としてターミナルケアを行う方針であり、入居時に家族とは十分話し合っている。二名の看護師を中心にスタッフ全員で方針の統一と共有化を図り、協力医療機関の医師の全面的なサポートを得ながらこの一年間で三名の看取りを行った。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の自己決定を最優先しており、拒否された場合は決して無理強いせず、尊厳を傷つけないよう声かけや対応に注意を払っている。写真の掲載、掲示については本人家族の了解を事前に取り等プライバシーに配慮している。又、記録などの取り扱いも外部漏洩がないよう管理されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>午前中は居室の整理や体操、午後は散歩、買い物、入浴、と基本的な一日の流れはあるが、利用者の希望、意向、体調等を考慮して出来るだけ個別性のある支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オシボリを配ったり、料理を運んだり、利用者は出来る範囲で手伝いをしている。全員でテーブルを囲み楽しい会話ができるような雰囲気作りにも配慮し、食べ方の混乱のある方への介助もさり気なく行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週4回入浴日を設けているが、希望があれば無理のない範囲で対応している。土曜日は足浴を行い清潔保持に努めている。入浴拒否に対しては無理強いせず、時間をかけて声かけて誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、洗濯物たたみ、手芸・習字など、日々の生活の中でそれぞれの得意なことを職員が把握した上でさり気ない声がけや誘導が見られ、一人ひとりが楽しく過ごせるよう配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	悪天候以外は近所への買い物、リハビリを兼ねた散歩は毎日行っている。月に一度は体調を考慮しながら、花見、イチゴ狩りなど全員でマイクロバスで遠出している。美容院、買い物など希望に沿って個々に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	駅近くの交通量の多い場所にあるため、利用者の安全を考慮し、外からは入れるが、中からは出られないよう施錠をしている。目立たないように工夫されており、家族も了解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て半年に一度防災訓練を行っている。消防署への直通の電話、火災探知機の設置、食料品、水、タオルなど備蓄もある。しかしながら地域との協力体制作りには至っていない。</p>		<p>災害などに際し、地域との連携は重要であり、今まで地域住民に声かけはしているが、町会等を通じて今後さらに連携強化が求められる。また、二階のユニットの利用者の避難について職員は不安感を持っており、二階からの非常階段を利用する際の対策の検討が望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士が献立を作成し、バランスの良い食事を提供している。食事量、水分量を毎回記録し、利用者の体調変化に留意している。また、調理の仕方を一人ひとりの嚆下、咀嚼力に合わせて個別に対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のスペースは利用者が共同で作成した貼り絵、習字、写真などが飾られ、リビングや廊下にはソファを設置して会話したり休息できるようになっている。明るく清潔なリビングには畳スペースがあり、横になってくつろぐことが出来、快適に過ごせるよう工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は広いスペースがあり、使い慣れたものを持ち込んでいただき、小まめに温度調節をして快適に過ごすことが出来るように配慮されている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。